

NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

第17回通常総会議事録

- 第一号議案 議長の選任
- 第二号議案 放送批評懇談会 2020 年度事業報告
- 第三号議案 放送批評懇談会 2020 年度決算報告
- 第四号議案 放送批評懇談会 2021 年度事業計画
- 第五号議案 放送批評懇談会 2021 年度収支予算

放送批評懇談会

2021年6月20日



特定非営利活動法人放送批評懇談会

<第17回通常総会>

■開催日 2021年6月20日

■会場 オンライン開催

■会勢 <正会員>
201名 (入会16名、退会9名)
<維持会員>
137社 (入会1社、退会2社)

■出席者 37名
石田研一 石橋さや夏 市村 元 出田幸彦
永 麻理 奥 律哉 音 好宏 小原道雄
勝野正博 茅原良平 川喜田 尚 国枝智樹
隈部紀生 汲田亜紀子 五井千鶴子
上滝徹也 小玉美意子 小林 毅 桜井聖子
鈴木健司 鈴木嘉一 滝野俊一 竹林紀雄
田代勝彦 長井展光 中島好登 丹羽美之
服部千恵子 桧山珠美 福島俊彦
藤田真文 古川柳子 堀木卓也 三谷実可
山田健太 渡邊 悟 渡邊久哲

■委任状提出者 80名

■出席予定者と委任状提出者で計117名



第一号議案 議長の選任

定款第27条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員の中から、「渡邊久哲氏」を合議により選出。

第二号議案

放送批評懇談会

2020 年度事業報告



2020年度総務事業報告

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支えました。
2. 第12回志賀信夫賞
正会員による候補者推薦を受け、選考委員会で選考を行い、WOWOW相談役の和崎信哉さんを選出しました。
選考委員会：音 好宏（委員長） 川喜田尚 藤田真文 出田幸彦 丹羽美之
3. 第58回ギャラクシー賞
2021年6月2日（水）、セルリアンタワー東急ホテルボールルームにて「第58回ギャラクシー賞贈賞式」を開催しました。
実行プロジェクトメンバーは演出・入江たのし理事、広報・滝野俊一理事、総務・中島好登事務局長を中心に編成しました。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下での開催となったため、出席者は受賞者、選奨委員、役員、スタッフなど必要最小限にとどめ（約150名）、無観客で行いました。報道陣も抑制し、通常の半数程度の受け入れとなりました。こうした状況のなか、ギャラクシー賞を広く伝えるため、贈賞式のYouTubeライブ配信を行いました。
4. 放送批評懇談会60周年
藤田真文60周年担当理事を中心に60周年（2023年）を検討し、以下の項目を60周年事業として推進することを確認しました。検討作業、事前調査に着手しました。
 - ①ギャラクシー賞60年史（広報委員会の扱いとする）
 - ②放送批評懇談会60年史（ギャラクシー賞年史の一部とする）
 - ③認定NPOの検討（川喜田専務理事、小林毅理事、中島好登事務局長を担当とする）
 - ④ギャラクシー賞制度検討（2月に「ギャラクシー賞検討プロジェクト」＝岩根彰子、茅原良平、国枝智樹、丹羽美之、柳川素子の各氏による調査結果報告）
 - ⑤ギャラクシー賞60周年記念賞



5. 「ザ・ベストラジオ2020」「ザ・ベストテレビ2020」

国内の放送番組コンクールで高い評価を受けた作品を放送するNHK「ザ・ベストラジオ2020」「ザ・ベストテレビ2020」に協力しました。

「ザ・ベストラジオ2020」はNHK FMで2020年10月30日（金）午後2時～6時放送。第57回ギャラクシー賞ラジオ部門大賞「J-WAVE SELECTION GENERATION TO GENERATION～STORIES OF OKINAWA～」、優秀賞「あなたと見た風景～目の見えない初江さんの春夏秋冬～」(青森放送)が放送されました。

「ザ・ベストテレビ2020」はNHK BSプレミアムで2020年11月9日（月）～13日（金）に放送。第57回ギャラクシー賞テレビ部門大賞「カネのない宇宙人～閉鎖危機に揺れる野辺山観測所～」(テレビ信州)が13日（金）放送されたほか、優秀賞・選奨の作品（ドキュメンタリー関係）がダイジェストで紹介されました。

6. 「在宅勤務規程」を制定し、「在宅勤務（テレワーク勤務）時における情報セキュリティガイドライン」を設置しました。

7. 新型コロナウイルス感染拡大による蔓延防止措置、緊急事態宣言に対応し、事務所の換気、消毒を徹底するなどして職員の感染防止に努めました。また、リモート会議システムZoomを活用し、理事会、委員会、取材、打ち合わせなどを行いました。



2020年度出版編集事業報告

1. 2020年度は下記のメンバーで運営しました。

委員長	鈴木健司
副委員長	国枝智樹 渡邊 悟
委員	岩根彰子 新川周平 鈴木 昭 高堀冬彦 西川博泰 三谷実可 宮崎美紀子
編集スタッフ	中島好登 福島美子 山本夏生 齋藤茜里 桧山珠美

2. 毎月6日に「GALAC」プリント版（4000部程度）と電子版で発行しました。

1) 特集テーマは以下のとおりです。

- 2020年10月号 ポストコロナの放送
- 2020年11月号 科学の伝え方
- 2020年12月号 リアリティショーとは何か
- 2021年1月号 第58回上期ギャラクシー賞
- 2021年2月号 やっぱり、ドラマは面白い
- 2021年3月号 キャスティング新時代
- 2021年4月号 震災10年 メディアはどう変わったか
- 2021年5月号 ミニ番組に注目！／「チェリまほ」の魔法とは？
- 2021年6月号 歴史番組に学ぶ／コロナとの付き合い方
- 2021年7月号 決定！第58回ギャラクシー賞
- 2021年8月号 続報！第58回ギャラクシー賞「贈賞式レポート」
「下期選考経過」
- 2021年9月号 ラジオのポテンシャル／第58回ギャラクシー賞
「受賞のことば」

2) 2020年度は新型コロナ禍に翻弄される社会状況、放送界への影響を常に念頭に置きながらの編集となりましたが、改めて時代性（の記録）というものを意識しながら、「放送（コンテンツ）を多角的に見つめ、健全な批評精神を発揮する」という基本的な編集方針に則った特集企画を揃え、タイムリーな誌面作りを心がけました。



3. KADOKAWA（プリント版）、ブックウォーカー（電子版）で販売しました。また、放懇オンラインショップ、富士山マガジンサービスでの直販に努めました。
4. 人気番組の特集記事、旬の俳優の表紙・グラビアなどは、特に一般読者からの反響が大きく、異例の売上げを記録するとともにGメンバー加入者の促進に寄与しました。
5. インターネット対応について
 - 1) ニュースサイト「東洋経済オンライン」「InterBEE マガジン」「goo」に記事の提供を行いました。
 - 2) Gメンバーサイトに引き続き電子版を提供しました。



2020年度選奨表彰事業報告

1. 2020年度は下記の委員で運営しました。

選奨事業委員長 出田幸彦

＜テレビ部門委員会＞

委員長 古川柳子

副委員長 桧山珠美

委員 石田研一 梅田恵子 永麻理 太田省一 岡室美奈子
桶田敦 加藤久仁 兼高聖雄 戸田桂太 戸部田誠
藤田真文 細井尚子

＜ラジオ部門委員会＞

委員長 五井千鶴子

副委員長 桜井聖子

委員 鵜飼一嘉 川喜田尚 北郷裕美 永須智之
松浦正和 松崎泰弘 三原治 迎康子
本村隆 山田眞嗣

＜CM部門委員会＞

委員長 服部千恵子

副委員長 汲田亜紀子

委員 家田利一 泉貴文 今宿裕昭 風間恵美子
川野康之 木下一郎 島崎英雄 中島和哉 村田玲子
山口菜穂美 山下治城

＜報道活動部門委員会＞

委員長 茅原良平

副委員長 長井展光

委員 市川哲夫 小泉世津子 境真理子 関美礼
中村正敏 西島泰三 原真 樋口喜昭 松山秀明

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里

2. 第58回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

＜テレビ部門委員会＞

・2020年4月から2021年3月まで、毎月月評会を開き月間賞4本



を選びました。

選考結果を「GALAC」誌上に月間賞選評および番組短評一覧として発表しました。毎月20日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。

- 2020年9月10日～30日、10月9日～21日に、第58回上期自薦作品146本を視聴。10月31日、月間賞(23本)と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。(オンライン方式で開催)
- 2021年3月11日～26日、4月8日～19日に、第58回下期自薦作品182本を視聴。4月25日、月間賞(24本)と自薦作品の中から下期入賞作品7本を選出しました。同時に特別賞、個人賞、フロンティア賞も選びました。フロンティア賞は、応募作品11本、推薦作品3本の計14本から選考しました。

<ラジオ部門委員会>

- 2020年4月から2021年3月まで、毎月委員会を開催してラジオについての合評を行いました。
- 2020年10月、上期45本の自薦作品を聴取し、10月20、27日に各カテゴリーの上期候補作品を選出しました。
- 2021年4月、下期43本の自薦作品を聴取し、4月19日、20日に各カテゴリーの下期候補作品を選出しました。
- 4月26日、上期下期をあわせた候補作品の中から入賞作品8本を選出し、DJパーソナリティ賞も選出しました。

<CM部門委員会>

- 2020年4月から2021年3月まで、毎月委員会を開催してCMについての合評を行いました。
- 2020年10月23日、上期58本(テレビ)、63本(ラジオ)の自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出しました。
- 2021年4月21日、下期88本(テレビ)、37本(ラジオ)の自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出しました。続いて最終選考会を行い、上期下期合わせた中から13本の入賞作品を選出しました。



<報道活動部門委員会>

- ・2020年8月31日に委員会をオンラインで開催して、新しい期の選奨委員の顔合わせなどを行いました。
- ・2020年10月26日、上期10本の自薦作品を視聴・聴取し、3本の候補作品を選出しました。(オンライン方式で選考会を開催)
- ・2021年2月16日に委員会をオンラインで開催して、報道活動についての情報交換を行いました。
- ・2021年4月24日、下期24本の自薦作品を視聴・聴取し、7本の候補作品を選出しました。上期下期合わせた中から6本の入賞作品を選出しました。(オンライン方式で選考会を開催)
- ・「GALAC」連載ページを委員が分担し、全国各地における報道活動の紹介、各局報道活動への期待、特定のテーマに関する報道活動についての論考などを執筆しました。



2020年度企画開催事業報告

1. 2020年度は、下記の委員で運営しました。

委員長 丹羽美之

副委員長 奥 律哉 水島宏明

委員 氏家夏彦 長井展光 新美妙子 本橋春紀

柳川素子 渡邊 悟

2. 2020年度は、「科学の伝え方～コロナ時代に求められる、知識と思考法～」というテーマで、11月にオンラインセミナーを開催しました。

(1) 注目度の高いテーマをタイムリーに設定したことで、定員100名のところ申し込みは満席となり、好評を得ました。

(2) また今回は、コロナ禍というこれまでに経験したことのない状況下でのセミナー開催ということもあり、従来のような対面形式ではなく、初のオンライン形式で実施しました。デジタルチケットサービス (PassMarket) やビデオ会議システム (Zoom ウェビナー) の導入、感染対策を徹底した上での少人数によるスタジオ生配信の運営、投票機能やチャット機能を活用したりリアルタイム双方向での参加者とのやり取りなど、オンラインセミナー開催の新たな方法論やノウハウを当会として蓄積できたことも、大きな収穫となりました。

(3) さらに今回のセミナーを企画するにあたっては、編集委員会とも積極的に連携し、雑誌「GALAC」2020年11月号 (特集：科学の伝え方) の連動企画とすることによって、「GALAC」の認知度向上、相乗効果による発信力強化にも努めました。

3. セミナーの概要は以下の通りです。

放送批評懇談会セミナー2020

タイトル: 「科学の伝え方～コロナ時代に求められる、知識と思考法～」 (「GALAC」2020年11月号連動企画)

日 時: 2020年11月25日 (水) 18:00～20:00

形 式: オンライン

定 員: 100名

NPO放送批評懇談会



第17回通常総会 2021

受講料：無料

申込先：PassMarket

講演者：市川 衛（NHK制作局チーフディレクター、メディカルジャーナリズム勉強会代表）

モデレーター：新美妙子（博報堂DYメディアパートナー）



2020年度広報事業報告

1. 2020年度は、下記の委員で運営しました。
委員長 滝野俊一
委員 飯田みか 石橋さや夏 小林英美 西川博泰
西森路代 柳川素子
事務局 中島好登 齋藤茜里
2. 公式ホームページの充実に努めました。特に「ドラマ座談会」や「話題作『チェリまほ』を語る！」など、オリジナル記事の掲載に力を入れました。また、正会員の投稿も掲載しました。
3. ツイッター、インスタグラム、フェイスブックといったSNSを使った広報活動に力を入れ、ギャラクシー賞や「GALAC」、放懇セミナーなど会の事業のパブリシティに努めました。ツイッターは11月から事務局が「公式」の運用を開始し、フォロワーも順調に増えています（1957名：6月13日現在）。
4. 第57回ギャラクシー賞では、初めてYouTube公式チャンネルで大賞、優秀賞を発表し、1.6万回以上の視聴を記録。8月3日に行われた贈賞式も3日後にYouTube公式チャンネルで配信し、こちらも5000回以上の視聴を記録しました（いずれも6月13日現在）。また、受賞者に独自にインタビューを行い、動画を掲載しました。
5. 第58回ギャラクシー賞贈賞式では、初めてYouTubeでライブ配信を実施。最大で7008人、通算で37,680回のアクセス数を記録。台湾や韓国、中国などからも視聴されました。6月7日にはアーカイブ版もアップし、4502回の再生回数を記録しています（6月13日現在）。
6. 第57回、第58回ギャラクシー賞贈賞式では、取材対応を担当。プレス向けの公式写真の配付も行いました。



7. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」(以下、Gメンバー)の会員を増やすべく、SNSなどを使った広報活動に力を入れました。また、「GALAC」のメイキング画像をGメンバーだけに公開するなど、サービスの充実に努めました。Gメンバーの会員数は、昨年度より500名以上増えて670名(6月13日現在)でした。
8. マイベストTV賞を運営し、第15回マイベストTV賞グランプリを木ドラ25「30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい」(テレビ東京)に贈りました。

マイベストTV賞は、放送批評懇談会正会員とGメンバーの投票で選出しました。途中経過を毎週、公式ホームページに掲載し、また毎月の投票結果をツイッターやインスタグラム、フェイスブックに掲載することで関心を高めました。

第三号議案

放送批評懇談会

2020 年度決算報告

収 支 計 算 書

2020年4月1日～2021年3月31日まで（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	3,000,000	3,418,680	△ 418,680
維持会費収入	43,000,000	42,040,000	960,000
Gメン会費収入	50,000	201,158	△ 151,158
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	28,000,000	28,895,420	△ 895,420
企画開催事業収入	800,000		800,000
周年事業収入		30,000	△ 30,000
3. その他の収入			
出版編集事業収入	5,500,000	6,429,061	△ 929,061
広告料収入	4,000,000	3,992,000	8,000
4. 雑収入			
受取利息	0	5,081	△ 5,081
5. 退職金関連			
保険満期返戻金	20,000,000	20,000,000	
当期収入合計	104,350,000	105,011,400	△ 661,400
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	7,750,000	7,500,253	249,747
式典費	10,500,000	11,798,795	△ 1,298,795
企画開催費	500,000	125,950	374,050
原稿料	5,700,000	5,552,987	147,013
編集費	4,000,000	4,039,856	△ 39,856
雑誌印刷費	18,500,000	18,979,290	△ 479,290
発送費	2,200,000	2,324,584	△ 124,584
2. 管理費			
給料手当	19,800,000	21,801,333	△ 2,001,333
人件費	22,000,000	20,114,620	1,885,380
法定福利費	2,950,000	3,043,954	△ 93,954
福利厚生費	120,000	78,818	41,182
旅費交通費	500,000	550,069	△ 50,069
通信費	550,000	556,730	△ 6,730
資料費	50,000	55,096	△ 5,096
会議費	150,000	52,265	97,735
水道光熱費	300,000	266,030	33,970
事務用品費	100,000	68,730	31,270
消耗品費	300,000	256,059	43,941
備品費	200,000	368,178	△ 168,178
諸印刷費	500,000	435,660	64,340
広報費	1,200,000	480,008	719,992
支払手数料	240,000	212,244	27,756
賃借料	4,100,000	4,109,159	△ 9,159
保険料	700,000	682,790	17,210
交際費	150,000	127,784	22,216
雑費	900,000	972,033	△ 72,033
諸会費	150,000	151,644	△ 1,644
租税公課	70,000	70,000	0
消費税	240,600	240,600	0
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	0
志賀基金繰入			0
当期支出合計	105,420,600	106,015,519	△ 594,919
当期収支差額	△ 1,070,600	△ 1,004,119	△ 66,481

貸借対照表

2021年3月31日現在(単位:円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	42,715,560		
未収入金	3,127,500		
所有物	286,625		
流動資産合計		46,129,685	
2. 固定資産			
賃借権利金等	33,163		
差入保証金	4,099,500		
特定資産			
志賀基金	61,930,131		
退職給付引当金	7,654,926		
固定資産合計		73,717,720	
資産合計			119,847,405
II. 負債の部			
未払金	7,314,064		
前受金	2,355,000		
預り金	326,994		
退職給付引当金	7,654,926		
負債合計			17,650,984
III. 正味財産の部			
志賀基金	100,000,000		
その他の正味財産	2,196,421		
正味財産合計			102,196,421
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			-1,004,119
負債及び正味財産合計			119,847,405

正味財産増減計算書

2020年4月1日～2021年3月31日まで(単位:円)

科目	金額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
現金預金増加額	320,302		
未収入金増加額	25,000		
特定資産増加額	2,194		
2. 負債減少額			
未払金減少額			
前受金減少額	15,000		
増加額合計		362,496	
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
賃借権利金減少額	132,645		
1. 負債増加額			
未払金増加額	184,341		
預り金増加額	49,629		
退職給付引当金増加額	1,000,000		
減少額合計		1,366,615	
当期正味財産増加額			-1,004,119
前期繰越正味財産額			103,200,540
期末正味財産額			102,196,421

第四号議案

放送批評懇談会

2021 年度事業計画



2021年度総務事業計画

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支援します。
2. 正会員の加入促進
正会員の加入促進に努め、より多彩な活動を支えます。
3. 維持会員の加入促進
維持会員の増員によって会の財政基盤を強めることを目指します。
4. ホームページ、ギャラクシー賞データベースの維持管理
広報委員会と連携し、公式ホームページを維持管理し、充実を図ります。
ギャラクシー賞データベースの管理運営に当たります。
5. Gメンバー、Gメンバーサイトの管理
広報委員会と連携し、「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」の管理に当たり、運営を支援します。Gメンバーサイトの維持管理に当たります。
6. ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、YouTube の運営管理
広報委員会と連携し、会の公式ツイッター、フェイスブック、インスタグラムおよびYouTube を管理、運営し放送批評懇談会、「GALAC」、ギャラクシー賞の広報に努めます。
7. 「GALAC」広告
出版編集委員会と連携し、「GALAC」広告の営業に努力するほか、スペースの有効活用について研究します。
8. ギャラクシー賞
第59回ギャラクシー賞の選考活動を支え、運営に協力します。



9. 志賀信夫賞
第13回の選考、表彰を行います。
10. 「日韓中テレビ制作者フォーラム・日本大会」
2021年度中に「日韓中テレビ制作者フォーラム・日本大会」を開催することになった場合、大会に協力し、成功に寄与します。
11. 放送批評懇談会 60周年
放送批評懇談会 60周年記念事業担当
川喜田 尚 藤田真文

2023年の放送批評懇談会60周年の事業を推進します。

- ① 広報委員会と協力し、「ギャラクシー賞60年史」の作成に当たります。
 - ② 広報委員会と協力し、放送批評懇談会60年史の制作をバックアップします。
 - ③ 「NPO法人としての放懇の在り方」を検討し、組織としての強靱化を図るため、財政の安定化、規程の整備などに着手します。
 - ④ 理事会、選奨事業委員会と連携し、ギャラクシー賞制度検討を進めます。
 - ⑤ ギャラクシー賞60周年記念賞を推進します。
12. 事務局の労働環境、管理・業務ならびに組織運営の規程を整備し、次世代につながる事務局体制を模索します。



2021年度出版編集事業計画

1. 2021年度は下記のメンバーで運営します。
委員長 鈴木健司
副委員長 国枝智樹 渡邊 悟
委員 岩根彰子 新川周平 鈴木 昭 高堀冬彦
西川博泰 三谷実可 宮崎美紀子
編集スタッフ 中島好登 福島美子 山本夏生 齋藤茜里
2. 毎月6日に「GALAC」を発行します。本年度の運営方針は以下のとおりです。
 - 1) 「放送」というカテゴリーが大きな転機を迎えようとするなか、新型コロナ禍による社会全体のパラダイムシフトという要素も加わり、メディアそのものの役割、あり方といった根源的な議論も求められています。「GALAC」はそうした状況を意識しつつ、「放送にかかわる諸問題に対してさまざまなアプローチを行い、放送文化の向上に貢献する」という創刊以来継続してきた役割を地道に果たしながら、定期刊行メディアとしての雑誌づくりを行っていきます。さらに、出版不況下で数少なくなった「放送専門誌」「放送批評誌」への期待に応えていくとともに、放送批評懇談会の「機関誌」としてギャラクシー賞その他の活動をより周知していく使命も果たしていきます。
 - 2) 基本編集方針は、特集・連載・各選奨事業委員会による作品批評の3本柱で構成し、読者ターゲットである「放送にかかわるあらゆるプロフェッショナル」「放送界をめざす学生」そして「意識の高い視聴者・聴取者」に、「面白い」「役に立つ」と感じてもらえるような記事を掲載するよう努めます。
 - 3) NPO法人の発行する雑誌として、どの団体、組織にも付度しないジャーナリズム精神、自由闊達な批評精神を堅持し、あらゆるテーマにチャレンジする編集姿勢を貫きます。また、専門誌として放送にかかわるさまざま事象を歴史として「記録」していく役



割も果たしていきます。

- 4) 特集ページは毎月タイムリーなテーマを選定するとともに、テレビ、ラジオ、CMのみならず、ネットメディアや衛星・ケーブルメディア、ローカル局や制作会社など、さまざまな領域に目配せし、バランスよく編成していくことを目指します。
- 5) 当会会員やGメンバーなどからの意見にも耳を傾けながら、柔軟かつ時宜を得た雑誌づくりに努めます。
- 6) 選奨事業委員会や企画事業委員会との連携を推進し、連動企画の実現など、放送批評懇談会の各種活動の活性化に寄与していきます。
- 7) 広報委員会や事務局と連携し、さまざまなチャンネルで「GALAC」に関する情報収集を継続的・積極的に行います。また情報発信を強化し、「GALAC」の存在感を高めるとともに、Gメンバーの入会促進に寄与するよう努めます。
- 8) 「GALAC」広告の営業に努力するとともに、有効活用を進めます。



2021年度選奨表彰事業計画

1. 2021年度は下記の委員で運営します。

選奨事業委員長 出田幸彦

<テレビ部門委員会>

委員長 古川柳子

副委員長 桧山珠美

委員 石田研一 梅田恵子 永 麻理 太田省一
岡室美奈子 桶田 敦 加藤久仁 兼高聖雄
戸田桂太 戸部田 誠 藤田真文 細井尚子

<ラジオ部門委員会>

委員長 五井千鶴子

副委員長 桜井聖子

委員 鶴飼一嘉 川喜田 尚 北郷裕美 永須智之
松浦正和 松崎泰弘 三原 治 迎 康子
本村 隆 山田眞嗣

<CM部門委員会>

委員長 服部千恵子

副委員長 汲田亜紀子

委員 家田利一 泉 貴文 今宿裕昭 風間恵美子
川野康之 木下一郎 島崎英雄 中島和哉
村田玲子 山口菜穂美 山下治城

<報道活動部門委員会>

委員長 茅原良平

副委員長 長井展光

委員 市川哲夫 小泉世津子 境 真理子 関 美礼
中村正敏 西島泰三 原 真 樋口喜昭
松山秀明

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里

2. 第59回ギャラクシー賞(2021年度)の審査、ならびに贈賞式を行います。



3. 2021年度の運営方針は以下のとおりです。

今年度はギャラクシー賞が創設されて59年目となります。ネットによる動画配信サービスが急速に拡大するなど、テレビ、ラジオを取り巻くメディア環境は年々大きく変化しています。加えて昨年来続いているコロナ禍は放送のあり方や制作現場の形態にも大きな影響を及ぼしています。

そうした厳しい環境に直面しつつも、昨年度は斬新な企画や制作手法に意欲的に挑戦する作品が数多く寄せられ、各部門で高い評価を受けました。

今年度も選奨にあたっては、各部門委員会が真摯で活発な討議を重ね、より厳正で慎重な審査と的確で質の高い選評に心がけます。そのことにより新鮮で多様な作品を発掘し、制作者たちの情熱ある番組づくりを応援していきます。あわせて応募数の増加に努力します。

これまでの「受賞作品を視聴する会」や「制作者と語りあう会」などについては、コロナ禍の状況を見据えながら、制作者と視聴者をつなぐ場やギャラクシー賞をPRする場としてひきつづき開催の可能性をさぐります。

また、60周年事業の「ギャラクシー賞制度検討」と連携しながら、新しい時代にふさわしいギャラクシー賞のあり方についても検討していきます。

1) テレビ部門委員会の運営

昨年度は、コロナ禍の厳しい環境にもかかわらず、ギャラクシー賞テレビ部門には、上期・下期合計328本の応募がありました(月間賞含め、審査対象作品375本)。例年にも増して力のこもった作品が集まり、前例のない対応を迫られるなかで新たな制作方法や表現形態の工夫も数々生まれました。2021年度のテレビ委員会は引き続き、現在を記録し、時代を検証し、豊かなエンターテインメントを創造する「テレビ力」を表彰するとともに、過渡期にあるメディア環境のなかで生まれつつあるテレビの潜在力にも着目し、発信していきます。



① 定例月評会の開催

毎月一回月評会を開催。各委員それぞれの視点から評価した作品を持ち寄り、委員間の情報共有にも努めながら、忌憚なき議論を通し「月間賞」を選定します。ジャンル（報道・ドキュメンタリー・ドラマ・バラエティ）の多様性を担保するための公平性やバランスを重視することはもちろんですが、昨今その境界線を越えていく作品もみられるので、番組や表現の在り方も深く議論し「私評」等に反映させていきます。

② ギャラクシー賞の選定

「月間賞」に加えて年2回、各放送局、プロダクション等からエントリーされる応募作品の選考を行い、上期、下期それぞれ「入賞」「奨励賞」を選定した上で、年間での「大賞」「優秀賞」「選奨」「特別賞」「個人賞」「フロンティア賞」を決定します。全国の地上波局、衛星放送局、ケーブルテレビ局の特性を尊重しつつ優れた作品を公平に評価し、次への制作意欲につながるような選奨を心掛けます。

③ フロンティア賞の位置づけ

ここ数年、テレビ局の通信媒体でのコンテンツ配信や、他媒体（ネット・ラジオ・地域メディア・イベント等）と連携したクロスメディア展開が進んできています。放送を起点とする、このような新境地開拓や挑戦的な試みを擲い上げ、フロンティア賞として評価します。

④ 制作者とのコミュニケーション

ギャラクシー賞、月間賞の際の選評やインタビューは、各委員にとっても大変重い仕事です。「テレビカ」の源泉である、熱意ある制作者の皆さんへのエールや気づきに繋がるよう、「GALAC」誌上での心を込めた論評に努めてまいります。

2) ラジオ部門委員会の運営

新委員を迎えて1年が経過しました。ギャラクシー賞選考会以外はZoom会議がほとんどの1年でしたが、困難を乗り越えてラジオ委員会の結束は強まりました。コロナ禍でラジオが注目を浴びています。なお一層のラジオメディア強化につなげるべく委員全員で情報を共有し、ラジオの魅力を発信していきます。



① 定例合評会

毎月1回の定例合評会を開催します。今まで同様、全国のAM局、FM局、コミュニティ局の全番組を対象に聴取番組を選び、評価をします。合評会の議論の内容は「GALAC」誌に掲載します。試聴する番組は毎月テーマを設定します。

(昨年とりあげたテーマ)

「元プロ野球選手がMCの番組」「昭和をテーマにした番組」「戦後75年特番」「アナログレコード番組」「自転車がテーマの番組」

「方言全開ラジオ」「年末年始特番」「演劇人のラジオ番組」「3.11の特番」「ラジオ技術を語る番組」「クルマ好きのために番組」

「医者がパーソナリティの番組」

番組の長所、あるいは改善点などを幅広く議論して番組の更なる充実を促します。ラジコを最大限利用し、魅力ある番組の発掘に努めます。

② ギャラクシー賞の選考

昨年度の応募本数は88本でした。局別の応募はAM局が58本、FM局18本、コミュニティ12本でした。カテゴリー別では生ワイド21本、音楽&エンターテインメント34本、ドラマ10本、報道・ドキュメンタリー23本でした。

応募は昨年度と同数。しかし、全88本中39本が首都圏の局からの応募でした。地方、特にコミュニティFM局からの応募増が果たせるよう努力します。

DJパーソナリティ賞の候補者選びは、毎月の合評会で聴取した番組などにも拡げて議論をします。

③ 「GALAC」誌での活動

優れた番組や出演者を発掘し、ラジオの魅力と話題を発信します。

「合評報告」をさらに充実させます。

「生ワイド番組紹介」では全国の放送局を12のブロックにわけ、地方ならではのユニークなワイド番組やDJパーソナリティを発掘します。

「ラジオデイズ」は委員各自の視点からラジオへの提言、問題提起、ホットニュース、気になる人物などを取り上げていきます。



④ ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会
26回を数えた通称「聴く会」。しかし、コロナ禍での現状では開催の目途は立っていません。多くのリスナーが一同に集まって入賞作品を聴き、入賞作品の制作者が熱き想いを語る…。このような有意義な場が再開できることを、切に祈ります。

3) CM部門委員会の運営

コロナ禍の収束は見えていませんが、ワクチン接種の促進と五輪の影響もあり、CMの状況は少しずつ常態に戻りつつあります。一方で、制作手法の変化、ウェブCMの役割の拡大など、一気に変革が進んでいます。まだ不確定要素が多く、予測不能の状況ではありますが、CMの社会的・文化的価値や効果を適正に評価しつつ、時代をブレイクスルーする作品を発見し、批評することに注力していきます。

CM委員会では以下の活動を通じ委員会運営を強化いたします。

① 月例定例会の開催

毎月1回、委員各々が3本ずつリストアップしたテレビ・ラジオCMを、多角的な視点から検討し、活発に批評活動を磨いてまいります。また必要に応じて、キャンペーンの一環としてのウェブCM動画もピックアップしていきます。

② ギャラクシー賞の選考

第58回ギャラクシー賞は、応募数でテレビCMが146本、ラジオCMが100本の総計246本。前年に比べて81本の大幅な減少となりました。上期は45本の減、下期は36本の減でした。新型コロナウイルスは経済に大きな負の影響を与えており、とくにテレビCMでは新作CMの減少、キャンペーンの縮小などが見られました。しかし作品の質は充分評価に値するものでした。選考会は、できる限り対面方式を取り、活発な意見交換のなかで選考を行います。クリエイティブ力のある作品、企画力のある作品、感銘をあたえる作品、時代をリードする作品を発掘していきます。

③ 「GALAC」誌への掲載

毎月の定例会のピックアップデータを「GALAC」誌面に反映できるようにしていきます。推奨される約30作品中、TOPICSと



して3作品、Monitor Roomに4作品、A la Carteに10作品を掲載し、一層の充実を図ってまいります。TOPICSでは、制作の映像表現・音声表現・企画演出・ドラマ性、メディアやターゲット・広告効果、情報としての価値・ニュース性、新しいCMスタイルなど、さまざまな切り口から、推奨作品を批評します。

④ 広報活動・セミナー開催

過去5回、「ギャラクシー賞CM入賞作品を見る・聴く会」を開催し、大賞受賞関係者をゲストに迎えてきましたが、昨年度から新型コロナの影響で開催が不可能になっています。受賞作品を解説と共に視聴することは参加者にとって大きな影響力があり、できれば続けたいところですが、他の広報手段を検討したいと考えます。

⑤ ラジオCM部門

現状では「ノンセクション審査」を行っており、応募本数に対して、ラジオCMの受賞本数はどうしても少なくなります。多くの委員からも、音声作品をテレビCMと同等に審査する難しさが指摘されています。60周年に向けて、審査方法、賞の本数など、見直しを検討していきたいと考えます。

4) 報道活動部門委員会の運営

① 報道活動部門は、放送批評懇談会の創立40周年を記念して2002年に創設されました。第59回ギャラクシー賞で20回目を迎えます。従来の賞やコンクールは、個々の「番組」の完成度や作品性を中心に評価を行いますが、それに対して報道活動部門では、個々の「番組」の枠組みでは必ずしも捉えきれない一連の「報道活動」全体を評価するところに最大の特徴があります。番組内の特集やシリーズ企画、長期間に及ぶ調査報道、局を挙げてのキャンペーン、ウェブや他メディアと連動した新しい展開・試みなど、多種多様な報道活動を対象にし、放送ジャーナリズムの活性化に寄与することを目的としています。

② 報道活動部門は応募制を採っています。年2回(上期・下期)、各社・各局からエントリーを受け付け、選考を行います。最終的に大賞1本、優秀賞2本、選奨3本を選びます。上記の選考の過程・結果は贈賞式及び「GALAC」誌上で発表します。



- ③ そして、日頃から各委員がテレビ・ラジオ各局、およびケーブルテレビ局の報道活動やキャンペーンなどの長期活動に注目し、リサーチした情報を交換する会を年2回程度開きます。その他に、委員の輪番による「GALAC」へのコラムの掲載（「報道活動部門トピックス」）、などを通して優れた報道活動を積極的に発掘、紹介し、多方面からの応募を促すことに努めます。
- ④ コロナ禍が続き、それに伴いオンラインでの活動が続きますが、本委員会は地方を拠点に選奨事業に関わる委員も多いので、ICT化した新しい委員会活動の方式を探り、そのメリットを生かすことにも努めます。



2021年度企画開催事業計画

1. 2021年度は下記の委員で運営します。

委員長 丹羽美之

副委員長 奥 律哉 水島宏明

委員 氏家夏彦 長井展光 新美妙子 本橋春紀

柳川素子 渡邊 悟

2. 放送の今日的課題をめぐるシンポジウム、セミナー・研究会などを企画・立案・実施します。

3. 本年度の運営方針は以下の通りです。

- (1) 幅広く、タイムリーにテーマを設定します。

「通信と放送の融合」「ローカル局の経営」「コロナ禍と放送」「東京五輪と放送」「放送のダイバーシティ推進」など、放送を取り巻く環境は大きく変化しています。放送ジャーナリズム、放送文化、経営問題などを幅広く視野にいれ、放送メディアが直面する様々な課題についてタイムリーに議論し、発信するように努めます。

- (2) 開催方法等については、コロナ禍の状況を見つつ、柔軟に検討・対応します。

これまで企画事業委員会では、ワンポイントのテーマで中規模のセミナーを年間1~2回開催してきました。しかし、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従来のような対面形式のシンポジウムやセミナーを開催できない恐れもあります。その場合はオンライン形式の開催とするなど、実施規模・開催時期・開催方法も含めて、柔軟に対応します。

- (3) 他の委員会との連携を一層強化します。

選奨事業委員会（テレビ、ラジオ、CM、報道活動の各部門）や編集委員会（「GALAC」）と積極的に連携し、相乗効果で発信力の強化を目指します。



2021年度広報事業計画

1. 2021年度は下記の委員で運営します。
委員長 滝野俊一
委員 飯田みか 石橋さや夏 小林英美 西川博泰
西森路代 柳川素子
事務局 中島好登 齋藤茜里
2. SNS（ツイッター、インスタグラム、フェイスブック）や公式ホームページ、YouTube 公式チャンネルを使った広報活動に、さらに力を入れます。
3. 「ドラマ座談会」や正会員の投稿といったオリジナルコンテンツの強化など、公式ホームページのコンテンツのさらなる充実を図ります。
4. 外部ポータルサイトと連携した広報活動も積極的に行います。
5. ギャラクシー賞贈賞式のYouTubeでのライブ配信を検討します。前年度の経験を踏まえて、配信内容や配信方法などの改善も研究します。
贈賞式当日（後日も含む）の受賞者動画インタビューもさらなる充実を目指します。
6. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の運営を行います。独自イベントやプレゼント企画の開催など、準会員制度の盛り上げとサービスの充実に努めます。
7. Gメンバーと正会員によるマイベストTV賞の月間ノミネート番組の投票を毎月実施します。そして、「第16回マイベストTV賞グランプリ」を決定し、第59回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。



8. 「ギャラクシー賞 60年史電子版」の企画、編集を行い、2023年6月の完成を目指します。

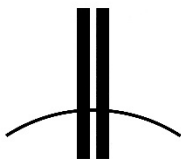
第五号議案

放送批評懇談会

2021 年度収支予算

2021年度予算
2021年4月1日～2022年3月31日まで（単位：円）

科目	2020予算額	2020決算額	2021予算額	備考
I. 収入の部				
1. 会費等収入				
会費収入	3,000,000	3,418,680	3,000,000	正会員会費
維持会費収入	43,000,000	42,040,000	43,000,000	維持会員会費
Gメン-会費収入	50,000	201,158	120,000	Gメン-会費
2. 事業収入				
選奨表彰事業収入	28,000,000	28,895,420	28,300,000	参加料, 贈賞式収入, レプリカ販売
企画開催事業収入	800,000		500,000	シンポジウム参加料
周年事業収入		30,000		
3. その他の収入				
出版編集事業収入	5,500,000	6,429,061	10,784,100	GALAC販売
広告料収入	4,000,000	3,992,000	4,000,000	GALAC広告
4. 雑収入				
受取利息	0	5,081	0	
5. 退職金関連				
保険満期返戻金	20,000,000	20,000,000	0	
当期収入合計	104,350,000	105,011,400	89,704,100	前年比105.5%
II. 支出の部				
1. 事業費				
選奨費	7,750,000	7,500,253	7,500,000	委員会, 見る聞く会, レプリカ, システム
式典費	10,500,000	11,798,795	12,500,000	ギャラクシー賞贈賞式開催費
企画開催費	500,000	125,950	300,000	委員会運営, セミナー実施経費
原稿料	5,700,000	5,552,987	5,600,000	GALAC原稿料
編集費	4,000,000	4,039,856	4,000,000	委員会運営, GALAC編集費
雑誌印刷費	18,500,000	18,979,290	19,800,000	GALAC印刷費
発送費	2,200,000	2,324,584	2,500,000	GALAC発送費
2. 管理費				
給料手当	19,800,000	21,801,333	21,500,000	職員給与
人件費	22,000,000	20,114,620	1,800,000	退職金, 臨時・契約職員
法定福利費	2,950,000	3,043,954	3,200,000	社会保険など
福利厚生費	120,000	78,818	100,000	残業飲食, 職員福利厚生
旅費交通費	500,000	550,069	550,000	通勤費・交通費, 役員交通費
通信費	550,000	556,730	560,000	郵便, 宅配便, 電話, ネット
資料費	50,000	55,096	50,000	新聞, 雑誌, 書籍
会議費	150,000	52,265	80,000	総会, 理事会などの会議費用
水道光熱費	300,000	266,030	270,000	水道代, 電気代
事務用品費	100,000	68,730	80,000	事務用品, PCソフト
消耗品費	300,000	256,059	270,000	コピー機使用料, 日用品
備品費	200,000	368,178	200,000	映像音響機器, PC関連機器
諸印刷費	500,000	435,660	450,000	封筒, 名刺など
広報費	1,200,000	480,008	750,000	委員会, HPなど維持, 日韓中
支払手数料	240,000	212,244	220,000	振込手数料, 更新手数料
賃借料	4,100,000	4,109,159	4,100,000	事務所賃借, コピー機レンタル
保険料	700,000	682,790	700,000	保険(退職金補填), 火災保険
交際費	150,000	127,784	150,000	冠婚葬祭
雑費	900,000	972,033	970,000	税理士, 社労士, NHK, WOWOW, JCOM
諸会費	150,000	151,644	150,000	友好団体会費
租税公課	70,000	70,000	70,000	法人都民税, 収入印紙
消費税	240,600	240,600	284,100	2018年度を対象に課税
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	毎年100万円の積み立て
志賀基金繰入				
当期支出合計	105,420,600	106,015,519	89,704,100	前年比104.3%
当期収支差額	△1,070,600	△1,004,119	0	



NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <https://www.houkon.jp/>